

主な活動実績 2022年4月～9月

4月2日	ボイスアクションを高松駅前で実施
25日	休眠預金活用セミナー 参加
30日	休眠預金活用シンポジウム OL 参加
5月13日	第2回高松市議会臨時議会 出席
20日	高松市監査委員会 出席
21日	NPO法人児童虐待防止ネットワーク かがわ総会 出席
23日	市長への緊急要望提出
24日	ひとり親パートナーズ活動報告会 参加
27日	高松市監査委員会 出席
30、31日	第3回高松市議会臨時議会 出席
6月4日	弦打校区・地域防災計画説明会 開催
9日	高松市監査委員会 出席
10～27日	第4回高松市議会定例議会 出席
17日	一般質問に登壇
24日	NPO法人アーキペラゴ総会 出席
27日	高松市監査委員会 出席
29日	芸術士フォローアップ研修会 出席
7月13日	保護司高松第8ブロック会議 参加
14日	高松市監査委員会 出席
21日	財政・決算説明を受ける 高松市総合教育会議 傍聴
22日	若竹学園分校新築工事起工式 参列
27日	高松市監査委員会 出席
28～29日	コミュニティ財団研修会 参加
8月6日	地域づくりチャレンジ塾 参加
12日	高松市監査委員会 出席
20日	こえび隊 ボランティア 参加
29日	高松市監査委員会 書面決議
30日	経済環境常任委員会 出席
9月5～21日	第5回高松市議会定例議会 出席
13日	一般質問に登壇

活動報告

5月21日

NPO 法人児童虐待防止ネットワーク かがわ総会に出席

児童虐待防止の活動をしている、NPO法人の総会に参加し、本市から委託している「かんがる一事業」の現状と課題などを伺いました。9月議会の一般質問に反映させました。

7月22日

若竹学園分校新築工事起工式に参加



児童心理療養施設若竹学園の学習環境が悪く整っていないことから、令和元年12月議会で現在の分教室から分校化とすることを訴えました。様々な問題を乗り越え、来春開校に向け着工しました。

会計報告〔政務活動費〕

2022年4月～9月

経費の区分		金額
1	調査研究費	40,391
2	研修費	0
3	広報費	263,442
4	広聴費	0
5	要請・陳情活動	0
6	会議費	17,300
7	資料作成費	6,492
8	資料購入費	0
9	人件費	0
10	事務所費	0
合計		327,625円

市民相談件数

2022年4月～9月 57件 【累計 2,029件】

相談やお気づきの点がありましたら、お気軽にお問い合わせください。

オフィシャルサイト

<https://www.haruta.jp>

E-mail: info@haruta.jp



公式Line登録はこちら▶



春風通信 はるかぜつうしん Vol.19

発行者:高松市議会議員 春田敬司 発行日:2022年10月
連絡先:高松市香西東町14番地8 電話:087-881-6411

高松市議会議員 春田 敬司 と明日を考える。

vol.19
2022.10

春風通信



コロナ禍を乗り越え、 未来の高松を拓きます！

新型コロナウイルス感染症・第7波の猛威が押し寄せ、市民の生活に大きな被害を与えました。高松市でも2回の臨時議会を開催し、感染症予防のための事業や、子ども1人当たり一律5万円の特別給付金、事業者のチャレンジを応援する補助金などを決定・実施しました。4回目のワクチン接種や医療提供体制を整えることは勿論、各種支援施策が皆様に円滑にお届けできるよう、最大限に働いて参ります。

完成した「やしまーる」を視察！



山本博司参議院議員と8月に完成した交流拠点施設「やしまーる」を視察しました。春田は香川の先人が優れた建築物で地域を拓いてきたように、単なる箱物ではなく高松のシンボルとなる施設となるよう、一貫して求めて参りました。これから皆さんと世界に誇れる広流拠点施設となるよう、育てて参ります。

地域防災活動の成果を市全域に広げます！

地域の防災士の皆さんと一緒に、「弦打校区・地区防災計画の説明会＆家具の転倒防止対策の研修会」を開催し、講師を担当しました。私たちの地域では二つの河川に挟まれ、北には海、東には土砂災害や山腹崩壊、ため池決壊など、様々な被害が想定されている地域です。更に指定避難所が大雨時に浸水することも想定されており、避難行動の見直しや、災害時に要支援者への声かけなど、地域をあげた対策となるよう、情報の共有を行いました。この取り組みの成果を市域全域に広げて参ります。



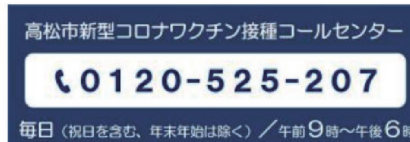
文化・芸術を推進！

瀬戸内国際芸術祭2022が開催。春田も「こえび隊」として作品制作のお手伝いや、作品会場の受付を担っています。芸術の秋、心を揺さぶるアート体験を求めて島旅に出かけませんか？



高松市の新型コロナウイルス感染症に関するお知らせ

追加（4回目）接種の情報や各種支援策など最新情報は高松市のホームページをご覧ください



高松市独自の支援策

中小企業等デジタルビジネス推進支援事業

市内企業のITを活用した新たなビジネス展開や業務環境の整備等の取り組みを支援するため、ITツールの導入経費を補助します。

通常枠	補助率1/2	補助額30万円～100万円
デジタル化基盤導入枠		
	補助率2/3	補助額 5万円～200万円
申込期間	令和4年10月上旬～	

春風通信 Vol.19



高松市議会議員

春田 敬司

はるか けいし





**毎回の議会で質問を重ね
声を形にしました!**

詳しい内容はインターネット
(議会中継)でご覧になれます。



令和4年第1回定例会 (3月15日)での一般質問

1. 包括外部監査について
2. 建設業のICT活用工事推進
3. 認知症予防対策
4. 医療的ケア児支援事業

1. 包括外部監査について

(1) 指定管理者選定結果の情報公開を拡充する考え

民間の知恵やノウハウの活用により、公共施設の利用価値を最大限に高め、コスト削減の効果が期待される指定管理者制度は、さらに重要度が増している。その選定の正当性や合理性を判断する上で不可欠な、選定・選定外の理由や評点を公表し、積極的に説明責任を果たすべき。

局長答弁

今後、市民の知る権利の尊重と当事者の権利・利益の保護を念頭に置き、情報公開の徹底と説明責任の全うの観点から、望ましい公開の在り方について検討する。

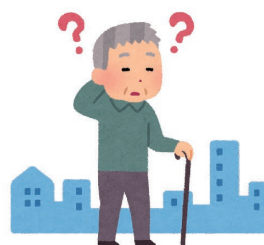
本年10月の選定結果から実施が決定

3. 認知症予防対策について

認知症になってしまうとなかなか改善が難しいが、その一歩手前の状態、軽度認知障害(MCI)の時に、予防活動をすれば16%程度が改善されるデータがある。認知症の早期発見と予防活動により高松市では27億5,200万円余りもの社会コスト削減になる試算をもとに、認知症の予防活動と連携した取組とすることが必要。

市長答弁

高松市も認知症予防対策の充実が喫緊の課題。軽度認知障害という認知症の発症前の段階で早期に発見し、適切な支援を行うことは、認知症の発症や進行を遅らせることが可能となることから、重要な取組であり、医療や介護給付等の社会コストの削減も期待できる。今後、様々な機会を捉えて軽度認知障害や本市の取組についての周知啓発に努めたい。



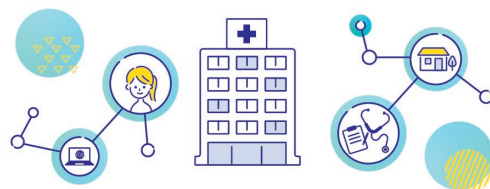
4. 医療的ケア児支援事業について

医療的ケア児支援を担っていただいている事業者を訪ねる中で「ケアを必要とする子供たちの病状や治療内容などが詳しく把握できれば、安全性の向上やケアの見立てや看護の質の向上につながる、かがわ医療情報ネットワーク(K-MIX R)を活用できないか」との声を受け質問

局長答弁

これまで以上に医療的ケアをより安全かつ適切に実施できることから、K-MIX Rの活用に向け、今後、このシステムを所管するかがわ医療情報ネットワーク協議会と協議してまいりたい

本年10月から実施が決定



令和4年第4回定例会 (6月17日)での一般質問

1. 瀬戸の都・高松の「海を活かした産業振興」について
2. 防災・減災について
3. 斎場施設「やすらぎ苑」の運営について

2. 防災・減災について

(1) 在宅の寝たきり高齢者に、避難行動要支援者名簿への登録の意向確認を行う考え

重度の障害があり、介護度の高い在宅中の寝たきり高齢者などで、回答のなかった方を名簿登録情報と突き合わせ、漏れがないかチェックする必要がある。速やかに関係各課と連携し、情報のチェックを行い、登録漏れのある方を抽出し、対策を講じる必要がある。

局長答弁 名簿登録の意向や登録内容を確認するなど、真に登録が必要な方の把握に向けて**早急に対応する。**

(2) 地域防災計画に学校等の公共施設にある受水槽の活用を明記し備える考え

指定避難所ともなっている本市の学校施設では、68基の受水槽があり、平均22トンが貯水されている。水道が復旧するまでを3日間としても2,400人余りの方の飲料水が、それぞれの身近な指定避難所に眠っている。地域防災計画に、学校等の公共施設にある受水槽の活用を明記し、備えるよう求めた。

局長答弁 学校や本市公共施設に設置された受水槽についても、災害時における対応力の向上を図る観点から、その活用方策等の検討を進めた上で、**本市地域防災計画に明記する。**

3. 斎場施設「やすらぎ苑」の運営について

やすらぎ苑は、開設時の地域との協議により、利用できる方を原則、香川町・香南町・塩江町の住民としている。本市の南部地域はまちづくりが進み、人口も増加してきている。斎場公園より近いやすらぎ苑を利用したいとの声をたくさん頂戴しており、利用対象者の拡充を行うことを求めた。また今後、増加が見込まれるペットの火葬件数への対応を求めた。

局長答弁 地元関係者等との協議を重ね、**令和5年4月から、全ての市民が利用**することができるよう、運用見直しの準備を進める。また、ペットの火葬については、火葬までの間、ペットの死体を一時安置できる冷凍保管庫の設置を検討するなど、火葬件数の増加に適切に対応する。

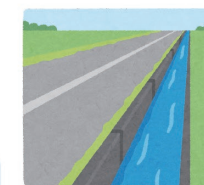
令和4年第5回定例会 (9月13日)での一般質問

1. 市民との協働によるまちづくりの充実について
2. 法定外公共物の維持管理について
3. 児童虐待防止事業の充実について

2. 法定外公共物の維持管理について

近年、農業従事者の減少や高齢化等による地域の担い手不足、宅地化の進行による農地の減少等により、農道や用排水路の維持管理が困難となりつつある。用途地域内の水路は宅地化が進んでいるために、農業用としての利用も少なく、生活排水としての利用が多く占めるため、受益の利用割合に応じて費用負担を算定することが求められている。

局長答弁 庁内横断的な体制の下、土地利用の変化に柔軟に対応した、望ましい水路の維持管理のあり方について**検討を進めたい。**



3. 児童虐待防止事業の充実について

これまでの取組みでは行き届いていなかった気になるグレーゾーンの家庭や保護者への支援を行うことで、早期に虐待を予防することや産後鬱・育児ストレス・多胎児育児など、様々な事由により外出が困難な家庭をサポートする家庭訪問型子育て支援の必要性を訴え、市民との協働による、養育支援訪問事業(かんがる一事業)を拡充するよう求めた。

市長答弁 子育て支援の実績とノウハウを有するNPO団体等と情報共有を図りながら、より一層、連携・協働して、**養育支援訪問事業を拡充したい。**

